



八十歳代になって輝いた母

浦城 いくよ

(井上靖長女・井上靖記念館相談役)



昨年十月十二日

の夕刻、母井上ふみは東京世田谷区桜の住みなれた自宅で九十八歳の命を閉じました。丁度、三連休でも

あったので「おばあちゃんが大大弱ってきた」と言うのを聞いて皆が集まって来ました。

私たち子供、そして母が可愛がっていた孫やひ孫に囲まれての安らかな旅立ちでした。

折にふれ、私たち一族は母を中心に皆がすぐに集まるので全く自然なことでした。

母が亡くなったのち、知人や友人たちから手紙や電話を頂きました。また昔母に会ったことがあるという記者の方々が、母の思い出を書いて下さったのを読んで、母はどうしてこんなに人に深い印象を与え、あたたかく人の記憶の中に入っているのだろうかと思議でした。母を評してまるで童女のような感じとよく言われます。

母は全く飾らない自然体の人でした。パーマをかけた髪、髪の毛を染めたこともなく、ひつつめにして頭の上で丸めてピンで止めていました。外出時には母親からもらったという、くねりのある珊瑚の楊枝を丸めた髪の毛に刺していました。楊枝を髪飾りにするなんていかにも母らしい発想でした。外出時には殆ど着物を着ていましたので、白髪に珊瑚の赤がとてもきれいな

でした。

九十歳を過ぎてからは「私がこの年で手が高く上げられるのは毎朝手を上に上げて毛を丸めて結っているからよ」と誇らしげでした。

母はまた、おっとり、のんびりタイプで、物事に動じることのない人でした。

ある日のこと、母が渋谷を歩いていたら、誰かに呼びとめられて「貴女は観音さまの相をしておられる」と言われたと帰宅してニコニコと報告しました。そこに居合わせた家族の者たちは「成る程」と納得しました。父はうれしそう、それからというもの何かにつけ「俺には観音さまがついているから大丈夫だよ」とよく言っていました。

私と弟が父に付添って病院に行った時のことです。帰宅前に電話で母に父が食道癌であることが知らせました。母は父の帰宅後早々に「あなた、食道癌ですってね、あれだけお酒を飲んだのだから仕方がないわね」と父に言ったのを聞いていました。あの頃は現在とは違い二十年以上も前のことで告知は簡単にはされない時代でした。でも母は隠すという事はしませんでした。これからの大事なお父さんの人生、よく考えて生きてやり残した仕事をしてもらわなといけないから」と後に母は言いました。

「何とかなるでしょ、成るようにしか成らないのだから今から心配しても仕方がないよ」と折にふれ、私たちに言っていました。これが母の生き方だったのかも知れません。

父が亡くなった時、母は八十歳でした。それからの母はエッセイを書いたり、短歌を作ったり、庭での野菜作りも続けていました。時に講演も頼まれたり、いろんな会にも出掛けて行きました。そんな時、私や妹は母に出来る限りのお洒落をさせました。八十歳代になってから単行本を五冊も出版社から出して頂いた人はそう多くはないでしょう。八十歳代の母は輝いていました。

母はまた大変研究熱心な人でした。

野菜嫌いな父に新鮮な野菜を食べさせようと始めた庭の野菜作りも自分の趣味と健康維持に役立っていました。モンペをはいて、ビニールのふる敷の上に座り込んで種を蒔いたり、草を取ったりしていました。木作りの時はどうするかと書きつけてあるノートを広げたり、近くにある農大に電話をして聞いたりしていました。そのうちに農大の先生が土壌でも調べるのか小さな道具を持ってきて下さるようになりました。廃物利用が大好きでメロンの空き箱や洗たく用のハンガーを利用してミニビニールハウスのまねごとのようなものを作って、鳥や霜対策もしていました。取れたてのトマトやキュウリを孫たちに庭でまるごと食べさせて楽しんでいました。

母が八十八歳になった日に書いた色紙があります。

「幸せは健康と辛抱と思いやりの果てに来る」「これは私が長い人生を生きてきて思った私の言葉で、人の言葉ではありませんよ」と強調していました。私も今の年令になって、この言葉がしみじみと身にしみてくるように思います。

井上靖記念館名誉館長 井上ふみ氏が平成二十年十月十二日に逝去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

企 画 展

平成20年度 事業報告

第一回企画展

井上靖とふるさと

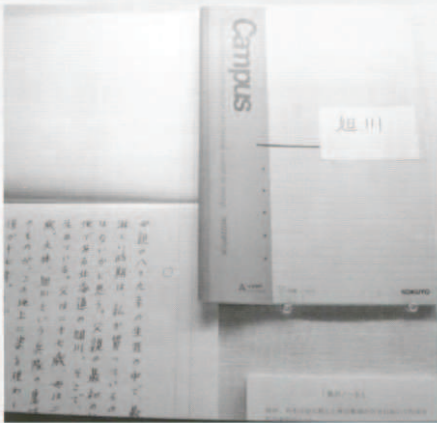
四月五日(土)～六月八日(日)

○趣旨

井上靖は明治四十年五月六日、旭川で生まれています。その翌年、第七師団軍医だった父の朝鮮転勤により、靖は、父母の郷里である伊豆湯ヶ島に母と共に移りました。自然豊かな湯ヶ島で祖母と暮らし、幼少時代、浜松・沼津で自由奔放に過ごした中学時代、金沢での高校時代の生活は、文学者としての精神的源流を築いたと言われ、作品にも大きな影響を与えています。この企画展では、靖自身がたどってきた歩みを確かめ、さまざまな記憶が織りなす親から子へという血のつながりや、自己形成されていったふるさとへの思いを紹介しました。

○展示を終えて

井上靖に限らず、自分の生い立ちや育ち方というものは、作品に大きな影響を与えます。他の文学者の「ふるさと観」との比較を試みることも今後の課題になると思います。



第二回企画展

草花が彩る井上文学

六月十四日(土)～八月三十一日(日)

○趣旨

井上靖の詩や小説・エッセーには多くの草花が描かれ、それぞれに美しい彩りが添えられています。井上靖の作品を読む者には、その草花によって、作品に描かれた情景の一つ一つが、あたかも一枚の絵画のような印象が与えられます。井上文学の草花は、ある時は詩や小説のテーマと結びつき、ある時は登場人物の心情にびったりと寄り添うように描かれています。この企画展では、梅や桜などが作品の中でどのように描かれているかを紹介しました。

○展示の主な内容

①井上靖と草花②桜③梅④紫陽花・テッセン⑤ナナカマド・スズラン・ばら⑥井上靖と自然

○展示を終えて

井上文学において、草花の占める役割は非常に大きなものです。このことに、きちんと目を留め、このテーマをさらに深く追い求めることは大事なことでないでしょうか。



第三回企画展(旭川文学資料友の会共催)

旭川ゆかりの文学者宮之内一平の仕事―作家・歌人・編集者として

九月六日(土)～十月十三日(月)

○趣旨

宮之内一平は、二十三歳の時上京し、出版社、印刷所、看板店などに勤めながら創作活動を続けました。戦後、旭川に戻り、業界記者を経て、郷土誌『豊談』を編集発行に力を注ぎました。著書に『造材飯場』、口語歌集『野草園』等があります。この企画展は、旭川文学資料友の会が中心になって企画展示し、宮之内一平の多彩な文学世界を紹介しました。

○関連事業

「宮之内一平小説と歌の世界」
・時期―九月二十一日(日)
・場所―井上靖記念館ラウンジ
・内容―宮之内一平の息女の話
宮之内作品の朗読

○展示を終えて

旭川ゆかりの文学者を紹介し、その作品を展示することは、ここ数年続けており、地域の文学活動の発展のためにも非常に有意義なことだと思えます。



第四回企画展

井上靖の初版本展

十月十八日(土)～一月十八日(日)

○趣旨

井上靖は昭和二十五年「闘牛」により芥川賞を受賞しました。その後本格的な作家活動に入り、平成三年に亡くなるまでの約四十年間、多くの作品を書いてきました。その間に出版された本は非常に膨大な数にのぼります。今回の展示では、三十九冊の初版本を展示し、井上が活躍していた時代を振り返りながら、井上文学の魅力を紹介しました。

○展示した本(一部)

『闘牛』『水壁』『城砦』『西域をゆく』『夏草冬濤』『孔子』等

○展示を終えて

初版本の発行部数というものは限られています。特に古い年代のものになれば、入手も困難になってきます。文学館・記念館の使命の一つに資料の収集ということも挙げられるならば、初版本収集にも力を入れたいのですが、経済的事情もあり難しい状況にあると思えます。



井上靖の紀行文と日本紀行

一月二十四日(土)～三月二十九日(日)

○趣旨

井上靖は生涯を通して多くの旅をしています。旅によって井上文学は非常に豊かなものになっていきました。旅先で出会った人々、美しい風景、めずらしい風物。井上靖はその感動と驚きを、懐かしい旅情を伴った紀行文に仕上げ、いきました。この企画展では、日本紀行に焦点を絞って展示しました。日本の気候風土、美しい風景、その中で生きる人々の姿。井上靖は、旅の中から人生を見つめることが出来たのだと思います。

○展示を終えて

この企画を通して、「人生は旅であり、旅は人生」であると言う井上靖の言葉が実感できました。展示期間中に、「井上靖の紀行文展」関連事業として、企画展内容の解説や本の紹介をする講座を開催しました。初の試みでしたが、井上文学をもう少し深く学ぶ場として位置づけることが出来たのではないかと思います。



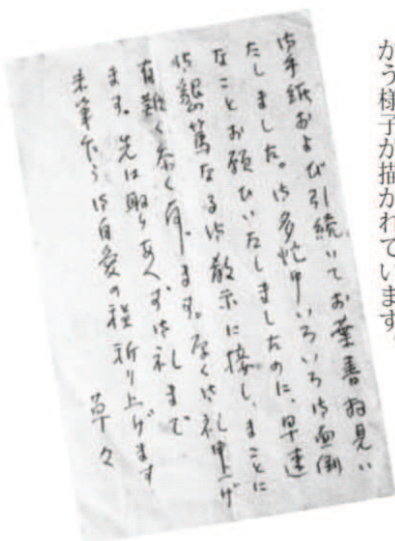
井上靖直筆のハガキ・手紙類を 寄贈していただきありがとうございました。

『黯い潮』執筆時の様子が伺える興味ある書簡類です。

『黯い潮』は、「下山事件」を題材にした小説で、昭和二十五年七月から十月まで「文藝春秋」に連載されました。

「下山事件」とは、昭和二十四年七月、時の国鉄総裁下山定則の遺体が常磐線の線路上で発見され、その死因を巡って自殺説であるという主張と他殺説であるという主張が対立し、世論を二分した論争が繰り返されました。当時、毎日新聞社にいた井上靖は、この事件を題材に、取材キヤップを主人公とした『黯い潮』を書きました。

小説の前半部分で、主人公速見の妻はるみが、若い歌手と心中事件を起こし死んでしまう場面があります。速見は、妻と歌手が海に飛び込んだという紀伊半島の南端串本まで、大阪天王寺から阪和電車で向かいます。東和歌山で紀勢西線に乗り換え、終点の南部駅で汽車を降り、バスで串本に向かう様子が描かれています。



「文藝春秋」に掲載されたこの部分は井上靖の記憶違いもあり、実際のコースや時間と少し異なっていたようです。

当時、新宮市に住んでいた青木選吉氏は井上靖の愛読者であり、この部分の誤りに気付き、井上靖に連絡しました。井上靖は大変喜んで、早速、青木氏に礼状を出し、更に詳しい情報提供を依頼しました。そして、青木氏からの情報を元に、単行本発売の時には、正確なルートに書き直しました。

青木氏のご息女中川直子さんは、現在旭川市に住んでおられます。父親の選吉氏の十七回忌の時、選吉氏の遺品を整理していて、『黯い潮』に関して父選吉氏と井上靖が交わした手紙とハガキを発見し、それを、旭川の井上靖記念館に寄贈してくださいました。

井上靖自筆の手紙とハガキを寄贈されるにあたり、中川さんから次のようなお便りをいただきましたので、一部ご紹介いたします。

「父選吉(大正二年一月二十四日～平成四年六月十四日)は新潟大学医学部卒業、大阪大学二内で終戦を迎え、帰郷して開業。無口な父でした。文学青年で、家には夏目漱石、森鷗外、志賀直哉等々の全集がたくさんありました。父の十七回忌、母の三回忌があり、実家の父の寝室にあったタンスの中から(手紙とハガキを)発見しました。



父が生前、多分私が小学生の頃だったと思われませんが、井上靖から手紙をもらったことがある。一愛読者にきちんと返事を書いてくれる立派な人だ」と話してくれたことを思い出しました。その時は、その手紙を見せてもらっていなかったため、手紙を発見した時はびっくりした次第です。私もこれからは井上靖さんの本を読んでみたいと思っています。中川さん、貴重な手紙とハガキをご寄贈いただき本当にありがとうございます。

なお、いずれ機会があれば、この手紙とハガキを公開展示し、雑誌と単行本の違いなどを比較したものを紹介したいと考えています。

自主事業の概要報告

文学講演会

井上靖の世界（詩と小説から）

英・仏訳の井上靖く翻訳の光景

とき／平成二十年六月二十一日（土）

講師／工藤正廣氏（北海道大学名誉教授）

「別離」という主題が色濃く表れている作品である『天平の鷹』の解説をし、フランス語訳と原文の比較考察をしました。

また、井上靖の詩を英語訳と原文の比較から、翻訳の難しさを、翻訳者でもある講師の実体験を基にしたからの講話をし、興味深い話を聞くことができました。

夏休みおはなし会

・第一回

とき／平成二十年七月二十九日（火）

講師／福田洋子氏（旭川こども富貴堂代表）ほか

・第二回

とき／平成二十年八月一日（金）

講師／上森伸子氏（旭川おはなしの会代表）ほか

一回目は、井上靖の童話『猫かほこんできた手紙』や、旭川にゆかりのある作家の作品の読み聞かせ。二回目は、『語り』による楽しいおはなしと、パネルシアターを行いました。たくさんのおはなし会になりました。

ロビーコンサート

とき／平成二十年八月三十日（土）

演奏／中野映里氏（フルート）

平川直子氏（伴奏）

朗読／塩尻曜子氏

フルートと電子ピアノによる音楽の演奏と、「自然」をテーマとした井上作品の朗読を組み合わせたコンサートを開催しました。

美しい演奏の音色と朗読に、皆さんは聞き入っていました。アンコールでは、「ふるさと」の演奏に合わせて全員で合唱しました。

旭川文学散歩

嵐山、春光台、見本林等の文学碑巡り

とき／平成二十年七月五日（土）

見学先／井上靖通り、嵐山、神楽方面

講師／平野武弘氏

天候に恵まれ、旭川市内の文学碑を九ヶ所見学しました。井上靖や三浦綾子をはじめとする、旭川出身の文学者の碑文を見学しました。講師による碑文の内容や解説をききながら、碑文として表れた文学者の思いを読み取りました。



■旭川文学散歩
井上靖通りにある文学碑を見学する参加者

「詩の黄金の庭 吉増剛造展」 関連事業

『芥川龍之介フィルム』Present - 新作Cine

とき／平成二十年八月十日（日）

ところ／井上靖記念館ラウンジ

講演／吉増剛造氏（詩人）

主催／北海道立文学館

共催／井上靖記念館

北海道立文学館で開催された「吉増剛造展」の関連事業を当館で開催しました。

吉増剛造氏が自らの手で撮影した「芥川龍之介フィルム」を、解説を交えながら上映。また、十勝岳や旭川について詠んだ詩「奮起せよ、アムンゼン」を、迫力のある朗読パフォーマンスで披露していただきました。

夕方からの開催でしたが、道内各地から、多くの参加者が集まりました。吉増剛造氏の世界へと惹きつけられる事業になりました。

秋のギターの調べ

とき／平成二十年九月二十七日（土）

演奏／坂元昭二氏（コースティックギターリスト）

朗読／佐藤健氏（劇団劇乃素艶屋）

主催／井上靖記念館

共催／井上靖ナナカマドの会

ギターの柔らかな音色と「秋」をテーマとした井上作品の朗読を行いました。即興で、ギターの演奏と「ナナカマドの赤い実の洋燈」の詩の朗読を組み合わせ、参加者を大いに湧かせていました。

井上靖 映像の世界

とき／平成二十年十月二日（木）

上映作品／「おろしや国酔夢譚」

現在の人物大黒屋光太夫の漂流生活を描いた作品のビデオ上映をしました。また、光太夫が当時のロシアの様子を報告したことをまとめた『北極間略』の本を紹介しました。



文学講演会



夏休みおはなし会



ロビーコンサート



文学講座①



文学散歩



「詩の黄金の庭 吉増剛造展」 関連事業



秋のギターの調べ

平成20年のあゆみ

- 4月5日～8月8日
第1回企画展 「井上靖とふるさと」
- 6月14日～8月31日
第2回企画展 「草花が彩る井上文学」
協力：写団かんじき
- 6月17日
第1回井上靖記念館運営協議会
- 6月21日
文学講演会
- 7月1日
旭川リンク・リンク・ミュージアム制度スタート
- 7月5日
旭川文学散歩
- 7月29日
第1回夏休みおはなし会
- 8月1日
第2回夏休みおはなし会
- 8月10日
「詩の黄金の庭 吉増剛造展」関連事業
『芥川龍之介フィルム』Presents—新作 ciné
- 8月30日
ロビーコンサート
- 9月6日～10月13日
第3回企画展
「宮之内一平の仕事
—作家・歌人・編集者として—」
- 9月21日
宮之内一平～小説と歌の世界～
- 9月27日
秋のギターの調べ
- 10月2日
井上靖 映像の世界
- 10月12日
井上ふみ氏（井上靖記念館名誉館長）逝去
- 10月18日～1月18日
第4回企画展 「井上靖の初版本展」
- 10月25日
第1回文学講座
- 11月8日
第2回文学講座
- 12月2日
第2回井上靖記念館運営協議会
- 1月24日
第3回文学講座
- 1月24日～3月29日
第5回企画展
「井上靖の紀行文～日本紀行～」
- 2月7日
第5回企画展関連事業
井上靖 紀行文の世界
- 1月10～2月27日
井上靖 童話の世界
～ぬりえコンクール作品展覧会
- 2月21日
ぬりえコンクール表彰式
- 2月25日
大人のためのおはなし会
- 3月14日
読書会

文学講座

・第一回
『天平の鷹』—井上靖・西域小説の確立へ
とき／平成二十年十月二十五日（土）

・第二回
井上靖・西域短篇小説における詩と歴史
—『異域の人』『玉碗記』
とき／平成二十年十一月八日（土）

講師／石本裕之氏（旭川工業高等専門学校教授）

・第三回
戦後文学と井上靖

とき／平成二十一年一月二十四日（土）
講師／片山晴夫氏（北海道教育大学旭川校教授）

『天平の鷹』、『異域の人』、『玉碗記』、『狼銃』などを取り上げ、作品の解説を行いました。井上靖の作品系列や、日本文学の流れから、井上作品の特徴を読み解きました。

歴史小説家として戦後文学の担い手として、井上靖を取り上げ、大変聞き応えのある内容でした。参加者の中には、三回とも全てを受講する方も見られ、改めて根強い井上文学のファンがいることに気付かされる講座となりました。

井上靖 童話の世界ぬりえコンクール

・作品展覧会

会期／平成二十一年一月十日～二月十五日まで
主催／井上靖記念館 共催／井上靖ナカカマドの会

伊豆の井上靖文学館で作成した井上靖童話冊子を使って小学校四年生を対象にぬりえコンクールを開催しました。

子ども達には、井上靖童話作品を読んでからぬりえをしてもらいました。ぬりえの中の登場人物にセリフを付けたり、絵を描き入れたりと、様々な趣向を凝らしたぬりえ作品が集まりました。

作品展覧会では、子ども達の力作揃いのぬりえが館内に展示されました。

・ぬりえコンクール表彰式

とき／平成二十一年二月二十一日（土）

受賞者と受賞者の家族が出席し、多くの人が見守る中、表彰式が行われました。賞状を受け取った子どもたちの笑顔はとても輝いていました。併せて、井上靖の「ひと朝だけの朝顔」の朗読を行いました。

大人のためのおはなし会

とき／平成二十一年二月二十五日（水）

講師／上森淳子氏（旭川おはなしの会代表 ほか）

子ども向けに行ってきたおはなし会を初めて大人を対象として行いました。楽しい話だけではなく、少しこわい話やユーモアのある話など内容も大人向けに設定されていました。

「語り」を通して、想像しながら聞くおはなしの魅力を存分に味わいました。

読書会

井上靖 ゆかりの地を読む

とき／平成二十一年三月十四日（土）
講師／秋岡康晴氏（井上靖読書会講師）

生誕の地旭川、幼少期を過ごした湯ヶ島など、井上靖ゆかりの地が、井上作品には登場します。それらの作品の朗読を交えながら、読み進めていきました。



■ぬりえコンクール 作品展覧会
入賞者の作品



▶大人のためのおはなし会



▶文学講座②



◀読書会



◀ぬりえコンクール表彰式

平成二十一年度 事業のご案内

企画展

◇第一回企画展

「老いと死を見つめて」
井上靖 晩年の小説」
四月十一日(土)～六月二十一日(日)

◇第二回企画展

「井上作品と自然(仮)」
六月二十七日(土)～九月六日(日)
協力 東延江氏(画家)

◇第三回企画展

「旭川ゆかりの歌人」
齊藤劉・史(ふみ展)」
九月十二日(土)～十月十八日(日)
共催 旭川文学資料友の会

◇第四回企画展

「井上靖が描いたヒロイン像(仮)」
十月二十四日(土)～一月十七日(日)

◇第五回企画展

「井上靖最後の長編小説」
『孔子』展」
一月二十三日(土)～三月二十八日(日)

自主事業

◇文学散歩

鷹栖町の文学碑めぐり
講師：平野武弘氏
六月二十日(土)

◇文学講演会

宮沢賢治の童話作品の解説
講師：齊藤征義氏(北海道立文学館理事)
七月十一日(土)

◇夏休みおはなし会

七月二十八日(火)・八月四日(火)

◇ロビーコンサート

八月下旬(予定)

◇井上靖 映像の世界

八月下旬(予定)

◇親子で楽しむ本の世界

十一月中旬(予定)

◇文学講座

十一月下旬、一月中旬(予定)

◇大人のためのおはなし会

二月下旬(予定)



職員異動のお知らせ

▽転出

彫刻美術館井上靖記念館担当課長
館長 渡辺 正
職員 長 荒川 美智
高橋 美忍
臨時職員 北川 美春

▽転入

彫刻美術館井上靖記念館担当課長
館長 荒川 美智
職員 長 平山 誠
紺野 香織
臨時職員 堺 あゆみ

年度別入館者数

年度	人数
平成5年	12,703
平成6年	20,385
平成7年	16,599
平成8年	14,893
平成9年	14,639
平成10年	16,832
平成11年	15,848
平成12年	13,486
平成13年	11,450
平成14年	12,475
平成15年	13,496
平成16年	10,077
平成17年	7,772
平成18年	6,331
平成19年	7,267
平成20年	6,740
総入館者	200,993

平成二十一年度 新企画

「井上靖講座」を開催します

「人間 井上靖」、「作家としての井上靖」、「井上靖の作品」など、様々な方面から井上靖の魅力を伝える「井上靖講座」を企画展開催中に行います。

内容／企画展の解説や企画展に関わる本の紹介

・講師を招いて井上靖作品の解説、鑑賞 など

◇第一回 井上靖講座

井上靖 晩年の小説を読む

『化石』から『孔子』まで

第一回 井上靖講座

井上靖 晩年の小説を読む

『化石』から『孔子』まで



井上靖記念館

内容／第一回企画展の解説と本の紹介
日時／五月十六日(土)

晩年の小説『化石』、『本覚坊遺文』『孔子』などの作品鑑賞や、それらに関わる参考資料を紹介しました。

(第二回以降は、広報紙等でお知らせします)



編集後記

近年、全国の文学館の入場者数が減少傾向にあるという話を聞くと心が痛みます。

それだけに、来館された方々に井上文学の魅力十分に伝えられるような館の運営に努めていきたいと思えます。

『暗い潮』に関する貴重な書簡類をいただきました。どんな些細なことでも丹念に調べ上げて、読みごたえのある作品を書いてきた井上先生の姿に、あらためて強い感銘を受けました。資料を提供してくださった中川さんに心からお礼申し上げます。